

TOEIC 準備クラスにおける学習ダイアリーの効果：
上・中・初級レベル別のビジュアル（可視化）チェックと
共通試験の連動について

Effects of Learning Diaries in TOEIC Preparation Classes:
Relationships Between ‘Visual Check’ and Final Common Tests
in Advanced, Intermediate, and Beginner Classes

ダガン さがの・西嶋 愉一

DUGGAN Sagano and NISHIJIMA Yuichi

Abstract

Learning diaries have become common teaching materials in EFL (English as a foreign language) classes, allowing educators and students to better acquire mutual understanding. Such diaries aid student understanding of lessons and facilitate performance improvement vis-à-vis self-review and educators can also use them to track student development. Therefore, we installed learning diaries in selected advanced, intermediate, and beginner classes in TOEIC preparation papers, conducted in Q1 and Q2 2016 at Kanazawa University, to determine their effect on common final tests. We focused on the first category of the learning diary—‘visual check’—covering preliminary tests (pre- and post-) and four quizzes, analysing their interrelations with the common final test. Results generally indicate positive correlations between overall scores concerning pre-, post-, and common final test for both Q1 and Q2. Correlations, however, decline respective to descending class level: advanced classes maintain performance, intermediate and beginner classes exhibit weaker to negative correlations. In light of incorrect answers being logged into learning diaries, we propose the second category—‘Can-do check’—be further leveraged to establish and correct for performance deficiencies. Finally, the third category—‘Self-check’—is particularly salient for beginners and should be used in classes containing online learning and further exercises.

1. はじめに

近年、学習ダイアリー(日記)を教材として使った英語学習は EFL (外国語としての英語) の授業で取り入れられておりその導入効果も研究されている (Dabbagh, 2017; Abdolmanafi Rokni & Seifi, 2013; Barjesteh, Vaseghi & Gholami, 2011)。学習ダイアリーを取り入れた授業では教員と学習者の両者がダイアリーを通じて学習者がどのように授業を理解したかが分

かるだけではなく、学習者は自らの学習を見直すことで自己の成績向上につながり、教員もまた学習者の学習方法や学習プロセスを理解できるため両者にとって有利であると実践されている(Lee & Gyogi, 2016; 大島 2005)。2016 年より金沢大学は「文部科学省スーパーグローバル大学 (SGU) 創成支援事業」の採択校として英語の共通科目 TOEIC 準備を上級、中級、初級の三つのレベルにクラスを分けて導入し、セメスター制 (前期・後期) をクォーター制 (4 学期制) とした。本研究では 2016 年度、第一クォーター (Q1 リスニング) と第二クォーター (Q2 リーディング) に開講した TOEIC 準備の上・中・初級クラスに学習ダイアリーを導入し授業中に課題として行った事前テスト、小テスト、事後テストの表記と共通試験 (期末試験) の連動に重視し、学習ダイアリーの効果がどのようなものかを考察した。

1-1. 学習ダイアリー

一般的にダイアリーというとその日に何があったかなどの出来事や感想・感情などをノートに表記するというプライベートなものであるが、本研究で導入した学習ダイアリーとはそのようなプライベートな日記とは違い 3 つのチェック項目: ビジュアル (可視化) チェック、Can-do チェック、セフルチェック、を参考に TOEIC 準備クラスの課題の一環として作成した実践ダイアリーである。まず、第一のチェック項目ビジュアルチェックにおいては、学習者が自己のテストの点数を記録しグラフ化することにより“見えないものが見えてくる”いわゆる可視化されるため学習者にとっては“直感的に理解しやすいもの” (白山、2009) となりテストで高得点が取れるとは限らないが学習者の向上やモチベーションにつながるといわれている (Lew & Schmidt, 2011; 植野 & 宇都, 2011)。次に、第二のチェック項目 Can-Do チェックは外国語教育において何ができるのか (Can-do) という語学能力に基づいており目的や目標などを明確にし、言語を使って何ができただかを理解することにより語学能力発達に用いられる (長沼, 2009)。最後に、第三の項目、セフルチェック (自己採点) は、外国語教育において正解・不正解を理解することにより自分が理解できていないのはどこなのかを見極めることができる。よって、できないところに集中することができるため成績を効率良くあげることができるとされており自分を客観的に分析できる能力も高めることができる (三宮 1998)。よって本研究で使用した学習ダイアリーはこれらのチェック項目を重視し次のように作成された。1. 事前テスト、小テスト (4 回)、事後テストの点数を表記し、TOEIC 試験のパートごと (Q1 ; Part1-4 リスニング、Q2; Part 5-7 リーディング) に分けてグラフにし、どのパートが苦手で、どのパートが得意かを明確に可視化出来るビジュアルチェック。2. 毎週授業で行う際に「授業の目的・焦点」「重要な語句」「授業で理解できたところ」「授業で理解できなかったところ」「授業後の感想 (自由様式)」を記述する定期的な Can-do チェック。3. オンラインラーニングの結果や授業で行う練習問題や宿題の解答を書き正解・不正解を記述したセルフチェック。以上三つの項目を持つ学習ダイアリーを作成し学習者の TOEIC のスコアアップを目標とした教材として毎週授業の課題として使用した。

1-2. 目的

本研究の目的は上記に説明した学習ダイアリーの項目 1) 事前テスト、小テスト (4 回)、事後テストの点数を TOEIC 試験のパートごと (Q1 ; Part1-4 リスニング、Q2; Part5-7 リーディング) に分けてグラフ表記したビジュアルチェックものと共通試験 (期末試験) の結果を上級、中級、初級クラス別に比較し学習ダイアリーの効果がどのようなものかを考察し今後の TOEIC 準備クラスの教材として学習ダイアリーの向上を検討することである。

2. データ収集方法

金沢大学共通科目 TOEIC 準備 Q1 (リスニング) 8 週間と Q2 (リーディング) 8 週間の計 16 週間において TOEIC 準備クラス各レベル 1 クラスずつ各研究同意者合計数 75 人 (上級 30 人、中級 26 人、初級 19 人) を対象にデータを収集した(注 1)。Q1 (リスニング) の第 1 週目の授業の際に学習ダイアリー(Q1)を配布し、本研究の目的や学習ダイアリーの書き方の説明した。Q2 (リーディング)の第 1 週目の授業では学習ダイアリー (Q2) の配布のみとし学習ダイアリーの書き方は Q1 と同じであることを伝えた。その後事前テスト、小テスト (計 4 回)、事後テスト、共通試験のスケジュールの説明をしたのち事前テストを行った。

表 1. 課題テストと共通試験のスケジュール表

週	スケジュール
1 週目	事前テスト
2 週目	小テスト 1
3 週目	なし (注 2)
4 週目	小テスト 2
5 週目	小テスト 3
6 週目	小テスト 4
7 週目	事後テスト
8 週目	共通試験

2.1 TOEIC 準備クラス Q1 (リスニング) 事前・事後テスト・小テスト

事前テストと事後テストはそれぞれリスニング Part 1 から Part4 に分かれており、TOEIC テストの出題形式と同じ形式で Part 1 写真描写問題 4 問、Part 2 応答問題 8 問、Part 3 会話問題 6 問)、Part 4 説明問題 6 問の計 24 問で構成されているテストを使用した。事前・事後テスト時間は約 15 分で事前テストは 1 週目授業が始まりガイダンス後すぐテストを行い、事後テストは 8 週目の授業の最後に行った。小テスト 1～4 においては、それぞれ Part1 (2 問)、Part 2 (1 問)、Part 3 (3 問)、Part 4(3 問)計 10 問のテストを使用し上記のスケジュール通り、授業の最後約 8 分程度で行った。

2.2 TOEIC 準備クラス Q2（リーディング）事前・事後テスト・小テスト

事前テストと事後テストはそれぞれリーディング Part5 から Part7 に分かれており、TOEIC テストの出題形式と同じ形式で Part 5 短文穴埋め問題 13 問、Part 6 長文穴埋め問題 3 問、Part 7 読解問題 10 問)の計 26 問で構成されているテストを使用した。事前・事後テスト時間は約 20 分で事前テストは 1 週目授業が始まりガイダンス後すぐテストを行い、事後テストは 8 週目の授業の最後に行った。小テスト 1～4 においては、それぞれ Part5（3 問）、Part 6 (3 問)、Part 3 (4 問)計 10 問のテストを使用し授業の最後約 10 分ほどで行った。

2.3 TOEIC 準備クラス共通試験

TOEIC 準備クラスでは、TOEIC の出題形式に準拠した試験を各クォーターの期末試験として実施している。Q1（リスニング）はリスニングのみ 100 問・45 分、Q2（リーディング）はリーディングのみ 100 問・75 分、Q3 は TOEIC の全パートについて問題数を半分にしたりスニング・リーディング各 50 問、計 100 問・60 分の試験問題を使用している。Q4 では TOEIC IP テストを実施し、そのスコアを期末試験の成績として評価に組み込んでいる。Q1・Q2・Q3 の試験問題は、問題としての妥当性、語彙やトピックの選定が適切に行われているかどうかを中心に学内で校閲を行い、品質の維持を図っている。

3. 分析結果と考察

Q1 及び Q2 の事前・事後テストと小テスト、両クォーターの共通試験、翌年 2 月の TOEIC IP テストのセクションごとのスコアについて相関分析を行った。TOEIC IP テストの Part 1+Part 2 の正答数合計、Part 3+Part 4 の正答数合計はスコアと同時に提供される Abilities Measured（項目別正答率）から計算した。

Q1 では、全体を対象に計算すると、事前テストと事後テスト、小テストと事後テスト、事後テストと共通試験、共通試験と TOEIC IP テストのリスニングセクションのスコアに中程度の相関がある。レベル別に分けると、上級では全体と同様に中程度の相関があるが、初級ではどの組み合わせに対しても有意な相関がない。パート別に分けると、上級は概ね中程度の相関があるが、中級・初級ではほぼ相関がない。問題数の少ない小テストと事後テストの組み合わせでは、パート別・レベル別に分けた場合、相関はないか、あっても中程度乃至弱い相関である。

初級の学生は共通試験の正答数が平均 45.9、TOEIC IP テストのリスニング平均点が 241.2 点（このテストでは 51 問正答した場合に 240 点であった）で、このレベルでは同じ素材を聴いても毎回同じように聴き取れているとは限らず、正解を特定できないまま適当にマークする、解答を放棄して適当なパターンでマークする（idiosyncratic answering）といった行動に出ることが多い。そのため、テスト結果が安定しない。その傾向が現れたものと推測できる。

Q2 では、全体を対象にしたとき、事前テストと事後テスト、事後テストと共通試験、共通試験と TOEIC IP テストのリーディングセクションのスコア、さらに事前テストと共通試験、事前テストと TOEIC IP テストのリーディングにも強い相関がある。

これもレベル別に分けると、上級では全体と似た傾向（強い相関または中程度の相関）になる。中級、初級についても事前テストと事後テスト、事後テストと共通試験（初級を除く）、共通試験と TOEIC の組み合わせについて中程度の相関がある。リーディングセクションは文法・語彙・語法の知識と精読を素早くこなすスキルがスコアに直接に反映するが、これらの力は短期間で簡単に伸びない、という要因が考えられる。今後、学習時間や学習の質を追跡して重ね合わせる必要がある。

初級において事後テストと共通試験の間に相関がなかったのは、事後テストの問題数が 26 問と少ないことが影響していることが考えられるが、原因を特定するにはテストそのものを詳細に分析しなければならない。これは今後の課題である。

全体としては、リスニング、リーディングとも、事前テストと事後テスト、事後テストと共通試験、共通試験と TOEIC IP テストのセクションごとのスコアに正の相関がある。レベルごとに分けると、下のレベルほど相関が弱い、あるいは有意な相関がない。上級レベルの学生は TOEIC が測定している英語力（リスニング・文法・語彙・語法・精読スキル）を維持している一方、初級レベルでは個々の知識やスキルが不足しているだけでなく、例えば語彙が不足していることで文法や読解の問題もリスニングも解けない、といったことが起こりがちで、テスト結果が安定しにくい。そういった指導者としての実感を裏付ける結果であった。

表 2. Q1 の相関分析結果 (小テスト・事後テスト)

対象	パート	レベル	相関係数	標本数	p 値	対象	パート	レベル	相関係数	標本数	p 値
小テスト 1 - 事後テスト	All	全体	0.483	74	1.282E-05	小テスト 3 - 事後テスト	All	全体	0.575	72	1.311E-07
		上級	0.358	30	0.052			上級	0.599	29	5.991E-04
		中級	0.562	25	0.003			中級	-0.051	24	0.812
		初級	0.019	19	0.937			初級	0.052	19	0.832
	Part 1	全体	-0.010	72	0.937		Part 1	全体	0.361	72	0.002
		上級	0.080	28	0.684			上級	0.231	29	0.228
		中級	-0.377	25	0.063			中級	0.247	24	0.244
		初級	-0.105	19	0.669			初級	0.380	20	0.098
	Part 2	全体	0.238	72	0.044		Part 2	全体	0.335	72	0.004
		上級	0.253	28	0.193			上級	0.463	29	0.012
		中級	-0.070	25	0.740			中級	0.060	24	0.782
		初級	-0.207	19	0.394			初級	0.129	19	0.599
	Part 3	全体	0.142	72	0.234		Part 3	全体	0.179	72	0.132
		上級	0.253	28	0.194			上級	0.224	29	0.243
		中級	0.423	25	0.035			中級	-0.250	24	0.239
		初級	-0.097	19	0.693			初級	-0.071	19	0.772
	Part 4	全体	0.354	72	0.002		Part 4	全体	0.414	71	3.290E-04
		上級	0.212	28	0.279			上級	0.389	29	0.037
		中級	0.461	25	0.020			中級	0.192	24	0.369
		初級	0.186	19	0.446			初級	0.364	18	0.137
小テスト 2 - 事後テスト	All	全体	0.473	72	2.710E-05	小テスト 4 - 事後テスト	All	全体	0.578	73	8.824E-08
		上級	0.381	30	0.038			上級	0.388	30	0.034
		中級	0.297	23	0.169			中級	0.514	24	0.010
		初級	0.391	19	0.098			初級	-0.052	19	0.833
	Part 1	全体	0.033	70	0.787		Part 1	全体	0.323	68	0.007
		上級	0.270	28	0.165			上級	0.265	28	0.173
		中級	-0.309	23	0.152			中級	-0.216	24	0.310
		初級	-0.222	19	0.361			初級	0.428	16	0.098
	Part 2	全体	0.211	70	0.079		Part 2	全体	0.347	68	0.004
		上級	0.000	28	1.000			上級	0.069	28	0.728
		中級	0.130	23	0.556			中級	0.238	24	0.263
		初級	0.256	19	0.290			初級	0.081	16	0.765
	Part 3	全体	0.260	70	0.030		Part 3	全体	0.486	68	2.692E-05
		上級	0.030	28	0.880			上級	-0.018	28	0.929
		中級	0.480	23	0.020			中級	0.460	24	0.024
		初級	0.172	19	0.482			初級	0.030	16	0.913
	Part 4	全体	0.130	70	0.284		Part 4	全体	0.307	67	0.011
		上級	0.107	28	0.589			上級	0.174	28	0.375
		中級	0.086	23	0.697			中級	0.485	23	0.019
		初級	-0.093	19	0.705			初級	0.252	16	0.346

TOEIC 準備クラスにおける学習ダイアリーの効果

表 3. Q1 の相関分析結果（事前テスト・事後テスト・TOEIC IP）

対象	パート	レベル	相関係数	標本数	p 値	対象	パート	レベル	相関係数	標本数	p 値
事前テスト - 事後テスト	All	全体	0.733	74	1.102E-13	事前テスト - TOEIC IP	All	全体	0.546	74	4.831E-07
		上級	0.634	30	1.673E-04			上級	0.370	27	0.057
		中級	0.457	25	0.022			中級	0.166	25	0.428
		初級	0.195	19	0.423			初級	-0.075	19	0.761
	Part 1	全体	0.276	73	0.018	事後テスト - TOEIC IP	All	全体	0.629	66	1.595E-08
		上級	0.140	29	0.469			上級	0.495	27	0.009
		中級	0.297	25	0.149			中級	0.385	19	0.103
		初級	-0.168	19	0.493			初級	-0.184	17	0.479
	Part 2	全体	0.545	73	6.162E-07		Part 1+2	全体	0.686	64	4.042E-10
		上級	0.375	29	0.045			上級	0.502	27	0.008
		中級	0.349	25	0.088			中級	0.610	20	0.004
		初級	0.013	19	0.958			初級	0.044	17	0.867
	Part 3	全体	0.480	73	1.697E-05		Part 3+4	全体	0.447	64	2.167E-04
		上級	0.552	29	0.002			上級	0.315	27	0.109
		中級	-0.005	25	0.981			中級	0.229	20	0.330
		初級	0.481	19	0.037			初級	-0.037	17	0.887
	Part 4	全体	0.254	73	0.030	Q1 共通試験 - TOEIC IP	All	全体	0.676	77	1.574E-11
		上級	0.210	29	0.275			上級	0.648	27	2.559E-04
		中級	0.049	25	0.816			中級	0.111	29	0.566
		初級	0.184	19	0.450			初級	0.185	22	0.411
事後テスト - Q1 共通試験	All	全体	0.670	66	7.888E-10		Part 1+2	全体	0.563	77	9.610E-08
		上級	0.619	30	2.651E-04			上級	0.410	27	0.034
		中級	-0.011	19	0.965			中級	0.289	29	0.129
		初級	-0.043	17	0.870			初級	0.128	21	0.581
	Part 1	全体	0.117	65	0.354		Part 3+4	全体	0.561	77	1.085E-07
		上級	-0.022	29	0.910			上級	0.472	27	0.013
		中級	-0.183	19	0.453			中級	0.201	29	0.295
		初級	-0.093	17	0.722			初級	0.129	21	0.578
	Part 2	全体	0.538	65	3.775E-06						
		上級	0.411	29	0.027						
		中級	0.023	19	0.927						
		初級	0.281	17	0.275						
	Part 3	全体	0.227	65	0.069						
		上級	0.247	29	0.196						
		中級	-0.463	19	0.046						
		初級	-0.191	17	0.463						
	Part 4	全体	0.359	65	0.003						
		上級	0.332	29	0.078						
		中級	0.070	19	0.777						
		初級	0.177	17	0.496						

表 4. Q2 の相関分析結果 (小テスト・事後テスト)

対象	パート	レベル	相関係数	標本数	p 値	対象	パート	レベル	相関係数	標本数	p 値
小テスト 1 - 事後テスト	All	全体	0.444	64	2.418E-04	小テスト 3 - 事後テスト	All	全体	0.481	60	9.935E-05
		上級	0.024	27	0.907			上級	0.381	26	0.055
		中級	0.267	22	0.230			中級	0.181	21	0.433
		初級	0.561	15	0.030			初級	-0.152	13	0.619
	Part 5	全体	0.485	63	5.701E-05		Part 5	全体	0.235	58	0.075
		上級	0.433	27	0.024			上級	0.252	25	0.225
		中級	0.491	22	0.020			中級	-0.068	21	0.771
		初級	-0.028	14	0.925			初級	-0.232	12	0.467
	Part 6	全体	0.152	63	0.235		Part 6	全体	0.356	58	6.034E-03
		上級	0.273	27	0.169			上級	-0.066	25	0.755
		中級	-0.107	22	0.636			中級	0.316	21	0.162
		初級	0.278	14	0.336			初級	0.618	12	0.032
	Part 7	全体	0.241	63	0.058		Part 7	全体	0.527	58	2.147E-05
		上級	-0.052	27	0.795			上級	0.493	25	0.012
		中級	0.100	22	0.660			中級	0.233	21	0.310
		初級	0.399	14	0.158			初級	0.281	12	0.377
小テスト 2 - 事後テスト	All	全体	0.469	62	1.202E-04	小テスト 4 - 事後テスト	All	全体	0.377	64	2.133E-03
		上級	0.392	27	0.043			上級	0.111	27	0.582
		中級	0.382	21	0.087			中級	0.396	22	0.068
		初級	0.245	14	0.399			初級	0.109	15	0.698
	Part 5	全体	0.235	62	0.066		Part 5	全体	0.163	64	0.198
		上級	0.199	27	0.321			上級	-0.090	27	0.654
		中級	0.019	21	0.934			中級	0.086	22	0.702
		初級	0.188	14	0.521			初級	0.358	15	0.190
	Part 6	全体	-0.041	62	0.750		Part 6	全体	-0.259	64	0.039
		上級	0.081	27	0.686			上級	-0.273	27	0.168
		中級	-0.073	21	0.754			中級	-0.251	22	0.261
		初級	-0.321	14	0.263			初級	-0.240	15	0.390
	Part 7	全体	0.319	62	0.012		Part 7	全体	0.468	64	9.568E-05
		上級	0.378	27	0.052			上級	0.551	27	2.872E-03
		中級	0.267	21	0.242			中級	0.209	22	0.351
		初級	0.211	14	0.469			初級	-0.003	15	0.993

TOEIC 準備クラスにおける学習ダイアリーの効果

表 5. Q2 相関分析結果（事前テスト・事後テスト・共通試験・TOEIC IP）

対象	パート	レベル	相関係数	標本数	p 値
事前テスト - 事後テスト	All	全体	0.748	68	2.295E-13
		上級	0.698	26	7.293E-05
		中級	0.446	26	0.022
		初級	0.672	16	4.382E-03
	Part 5	全体	0.667	68	5.478E-10
		上級	0.514	26	7.235E-03
		中級	0.558	26	3.056E-03
		初級	0.482	16	0.059
	Part 6	全体	0.083	68	0.499
		上級	0.142	26	0.489
		中級	-0.138	26	0.501
		初級	0.056	16	0.837
	Part 7	全体	0.493	68	1.948E-05
		上級	0.452	26	0.020
		中級	0.083	26	0.688
		初級	0.584	16	0.018
事後テスト - Q2 共通試験	All	全体	0.759	74	4.751E-15
		上級	0.678	29	5.313E-05
		中級	0.611	28	5.579E-04
		初級	0.401	17	0.111
	Part 5	全体	0.670	72	1.216E-10
		上級	0.666	29	7.912E-05
		中級	0.651	26	3.132E-04
		初級	0.002	17	0.993
	Part 6	全体	0.527	72	1.990E-06
		上級	0.526	29	3.361E-03
		中級	0.401	26	0.042
		初級	0.205	17	0.429
	Part 7	全体	0.577	72	1.152E-07
		上級	0.427	29	0.021
		中級	0.383	26	0.054
		初級	0.435	17	0.081
事前テスト - TOEIC IP	All	全体	0.705	77	8.397E-13
		上級	0.609	27	7.566E-04
		中級	0.362	29	0.053
		初級	0.532	21	0.013
事後テスト - TOEIC IP	All	全体	0.709	77	5.590E-13
		上級	0.637	27	3.499E-04
		中級	0.659	29	9.997E-05
		初級	0.396	21	0.076
Q2 共通試験 - TOEIC IP	All	全体	0.759	77	1.194E-15
		上級	0.708	27	3.674E-05
		中級	0.576	29	1.071E-03
		初級	0.614	21	3.060E-03

4. まとめ

本研究はTOEIC準備クラスで行われた事前・事後テスト及び小テストのスコアを学習ダイアリーの項目であるビジュアル（可視化）チェックに表記してもらい、それを分析しそれぞれのスコアと共通試験のスコアの連動を見た。その結果Q1（リスニング）とQ2（リーディング）ともに事前テスト・事後テスト・共通試験のスコアに正の相関があることがわかった。一方、上級・中級・初級クラスのレベルごとに分けるとレベルが低いほど相関が弱いか有意な相関がないことが分かる。パートごとに分割するとリスニングpart 1 & part 2とpart 3 & part 4では、どのクラスでも有意な相関は少ない。リーディングの事後テストを見てみるとpart 5の正解率が極端に低いことがわかった。これらの結論からリスニング・リーディングともに基礎英語能力が高い学習者（上級クラス）はその学力を維持できている傾向があると言える。中級クラスの学習者もリーディングに関しては学力を維持している傾向にある。しかしリスニングでは有意でも負の相関が見られる。初級クラスでもリスニングでは相関が少ないため、ここから推論されることは事前・事後テストや小テストは問題数が少なく四択問題のため分からない問題は不正解となる傾向にある。よってこれらの不正解の問題を学習ダイアリーで可視化し第二項目であるCan doチェックで分かること、分からないことをより細かく把握することにより不正解が正解になるのではないだろうか。一方リーディングのpart 5 & part 6もリスニング同様問題数が少なく、知識問題のため語彙・語法・文法の知識と精読を素早くこなす能力が必要となるが特に中級クラスではこれらの能力が低いと言えるだろう。それ以上に初級レベルではこれらの能力の欠如が見られるため結果が安定しない傾向にあると言える。そのため特に初級クラスでは第三項目であるセルフチェックを効率的に利用しオンラインラーニングや練習問題を集中的に授業中に取り入れていくことが効果的なのではないだろうか。

注

（注1）上級クラス Q1 では 30 人、Q2 では 29 人（1 人外部試験単位認定のため）、初級クラスでは Q1 では 19 人、Q2 では 18 人（1 人提出していないため）を対象にした。

（注2）両クォーターとも 3 週目に第三項目セルフチェックの課題があったため敢えて小テストは行わないことにした。

参考文献

- Abdolmanafi Rokni, S.J., & Seifi, A. (2013). The effect of dialogue journal writing on EFL learners' grammar knowledge. *Journal of Language and Linguistic Studies*, 9(2), 57-67.
- Barjesteh, H., Vaseghi, R. & Gholami, R. (2011). The effect of diary writing on EFL college students' writing improvement and attitudes. Paper presented at International Conference on Languages, Literature and Linguistics, Singapore: IACSIT Press.
- Dabbagh, A. (2017). The Effect of Dialogue Journal Writing on EFL Learners' Descriptive Writing Performance: A Quantitative Study. *International Journal of Applied Linguistics and English Literature*. DOI: <http://dx.doi.org/10.7575/aiac.ijalel.v.6n.3p.71>
- Lee, V., & Gyogi, E. (2016). The reflective learning journal in the classroom. In P. Clements, A. Krause, & H. Brown (Eds.), *Focus on the learner*. Tokyo: JALT.
- Lew, M. D. N., & Schmidt, H. G. (2011). Self-reflection and academic performance: is there a relationship? *Advances in Health Sciences Education*, 16(4), 529–545.
<http://doi.org/10.1007/s10459-011-9298-z>
- Thomas M. Haladyna (2004). *Developing and Validating Multiple-choice Test Items* (3rd ed.), Routledge
- 植野真臣 & 宇都雅輝 (2011) 「他者からの学びを誘発する e ポートフォリオ」、日本教育工学会論文誌, 35-3, 169-182.
- 大島晋 (2005) 「学習者と教師のダイアリーを通じた授業認識」 名古屋大学.
- 三宮真知子 (1998) 「メタ認知能力を伸ばす」 科教研報 13 号、2、p. 45-48.
- 白山晋 (2009) 「可視化から何がわかるのか」 東京大学、システム創成学 第二回 学術講演会.
- 長沼君主 (2009) 「Can-Do 評価一学修タスクに基づくモジュール型シラバス構築の試み」、東京外国語大学論集、79 号、p.78–106.